

# Game Sence を踏まえた球技の授業づくり

## —自己調整学習の変容に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏 名 小出 隼大

文部科学省は、社会の流れについて、将来の変化を予測することが困難な時代としている。そのような時代を生き抜くために、主体的に取り組む態度の必要性が高まっている。そこで、体育授業において、自己の学びを調整する力をどのように育成していけばよいかに着目した。本研究では、Game Sence が児童の自己調整学習に与える影響を明らかにすることを目的とした。

対象は公立小学校第 5 学年 28 名であった。教材はタグラグビーを用いた。Game Sence の考え方を踏まえ、用具、ルールなどの工夫を行った。評価は自己調整学習を捉えるために、主に学習カードの変容を基に検証を行った。その結果、本実践ではメインゲームに児童が参加しやすい工夫をしたことによって、全員がプレーに関わり、試行錯誤する回数を増やすことに繋がった。それにより、自己調整学習のサイクルを循環させることができることが示唆された。今後、体育における他領域での実践でも検証されることが望まれる。